

# リカレント教育及び潜在保育士復職支援研修 －2022年活動報告－

**Report on the Activities of the Recurrent Education and the Job Training Project  
for Potential Nursery Teachers : A Report of the Activity 2022**

松 本 希 ・ 三 好 年 江  
荊 木 まき子 ・ 山 下 世史佳  
六 車 美 加 ・ 柴 川 敏 之  
鎌 田 雅 史 ・ 小 谷 彰 吾  
土 田 耕 司 ・ ズビャーギナ章子

# リカレント教育及び潜在保育士復職支援研修 －2022年活動報告－

Report on the Activities of the Recurrent Education and the Jog Training  
Project for Potential Nursery Teachers: A Report of the Activity 2022

松本 希 (幼児教育学科)	・	三好 年江 (幼児教育学科)
MATSUMOTO Nozomi		MIYOSHI Toshie
荊木 まき子 (幼児教育学科)	・	山下 世史佳 (幼児教育学科)
IBARAKI Makiko		YAMASHITA Yoshika
六車 美加 (幼児教育学科)	・	柴川 敏之 (幼児教育学科)
MUGURUMA Mika		SHIBAKAWA Toshiyuki
鎌田 雅史 (幼児教育学科)	・	小谷 彰吾 (幼児教育学科)
KAMADA Masafumi		KOTANI Shogo
土田 耕司 (幼児教育学科)	・	ズビャーギナ 章子 (幼児教育学科)
TODA Koji		ZVYAGINA Akiko

キーワード：リカレント教育、潜在保育士、保育士、復職支援 就業継続

## 1. はじめに

2022年度の岡山市の保育所・認定こども園への入園状況<sup>1)</sup>は、18,884人の入園申込児童数に対し、利用定員数は18,870人で、受入児童数は18,256人となり、未入園児は628人となった。そのうち、幼稚園等での預かり保育利用や企業主導型保育事業等を利用する児童数等々を差し引き、最終的に岡山市より報告された待機児童数は8名である。就学前児童数は年々減少しているものの、入園を希望する児童は増加している。岡山市の待機児童が最も多かった2017年と2022年度を比較すると、就学前児童数は4,472人減少しているが、入園申込児童数は1,796人増加している。子どもを育てる年代が含まれる15～64歳の就業者数の推移をみると、男性では横ばいだが、女性は増加し続けている<sup>2)</sup>。近年の女性の社会進出は顕著であり、乳幼児の預け場所となる保育所・こども園への期待は大きい。全国的にみると、昨年度の待機児童数の減少要因は、保育の受け皿拡大に加え、新型コロナウイルス感染症の流行による利用控えが指摘されていた<sup>3)</sup>。しかしながら、2022年度は女性の就業率が増加している一方で、待機児童数は減少している自治体が多い。このことから、保育の受け皿の確保がある程度整備されたことが推測される。

保育の受け皿の確保には、保育士の確保も不可欠である。2013年の「待機児童解消加速化

プラン」の発表の翌年にあたる2014年に、就実短期大学幼児教育学科では、潜在保育士復職支援プロジェクトを立ち上げた。保育士としての勤務経験の有無にかかわらず、保育士資格を持ちながら就業していない「潜在保育士」の保育士復帰を後押しすることを目的として、研修会を開催している<sup>4) 5) 6) 7) 8) 9) 10)</sup>。2015年度以降は現職の保育士の学び直しを後押しするために、「卒後リカレント教育」としても同時に実施し、離職者防止に寄与することも目的としている。

2019年度までは、受講者には大学に来てもらい、対面にて開催していたが、2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な開催様式を模索している。昨年度は、対面での開催を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、最終的にオンラインでの研修会と紙面での研修会を併用して開催することになった。2021年度の活動報告<sup>10)</sup>の中で、「様々な方法で受講できる研修会様式」、「保育士歴等の個々の背景を考慮した研修会内容」等を課題として挙げている。待機児童の解消に向けて、保育の受け皿を拡充したことに伴い、保育士の確保も急速に進められた。保育者の処遇改善はもとより、潜在保育士の再就職支援や保育士試験の年2回の実施等である。次は保育の質の確保と向上に寄与する研修会の実施が重要であると考え。本報告は、このような課題解決を念頭に置いてすすめた「2022年度卒後リカレント（学び直し）教育研修会及び潜在保育士復職支援研修会」についてまとめたものである。

## Ⅱ. 研修会実施までの経過

### 1. 準備

今年度も昨年度に引き続き、岡山県の「保育士養成施設連携強化事業」の「保育士の再教育事業（若手保育士・潜在保育士を対象とした学習会の開催）」の委託を受け、若手保育士や潜在保育士の就業継続や復職支援の視点も意識して実施した。研修会のポスターやチラシ等は、県内の保育所・こども園等を中心に配布した。さらに本学科の卒後10年までの卒業生にも案内ハガキを郵送した。

今年度は、以下のような内容の変更に取り組み研修会を開催した。

〈研修会名の変更〉

○変更前（2021年度まで）

「潜在保育士復職支援研修会及びリカレント（学び直し）教育研修会」

○変更後（今年度）

「リカレント（学び直し）教育研修会及び潜在保育士復職支援研修会」

○理由

現職及び潜在保育士を問わず、生涯学び続けていく姿勢を重視したためである。また、昨年度より「保育士試験で保育士資格の取得を目指している方」と「子育て支援に携わる

方」も研修会対象者に含めたため、研修会名を変更した。

#### 〈参加方法の拡充〉

##### ○変更前（2019年度まで）

対面での研修会の開催。（その後、新型コロナウイルス感染症の流行のため、2020年度は紙面開催、2021年度は対面での開催を想定して準備をしていたが、直前になりオンラインと紙面の併用開催に変更となった。）

##### ○変更後（今年度）

対面とオンライン（ZOOMを用いたライブ配信で講義科目のみ）の併用開催。

## 2. 研修会開催方法及び申込について

研修内容は表1に示す通りである。\*印の講義科目は、対面とオンラインでの併用開催であったことを示している。情報交換会及び就実こども園での体験実習は、対面での開催を想定して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、研修会直前に急遽中止とした。

表1. 2022年度研修会日程と申込件数・当日参加者数

日程	講義内容	申込件数
8/23（火）午前	*教育相談（荊木）	10（6）
8/23（火）午後	器楽（山下）	4
8/24（水）午前	*乳児保育（三好）	17（12）
8/29（月）午後	情報交換会	中止
8/29（月）午前	*保育内容総論（六車）	11（8）
8/29（月）午後	図画工作（柴川）	5
9/3（土）	就実こども園での体験実習	中止
9/6（火）	就実こども園での体験実習	中止

（ ）内はオンラインでの参加申込数で内数

#### 〈研修会参加の流れ〉

申込については、受講希望者に自身が受講したい研修を選んで申し込んでもらっている。今年度は対面とオンラインの同時開催とし、研修会終了後に申込者全員に講師が作成した資料を送付した。詳細な流れについては、以下に示す。

- ① 申込者全員に、オンライン研修会参加用のURLをメールと手紙にて案内をした。オンラインでの参加については、申込をしていない研修会への参加も可能とした。
- ② 表1に示す日程に基づいて、対面及びオンラインでの研修会を実施した（講義科目のみオンライン対応）。
- ③ 研修会実施後、各講師が作成した資料を冊子にし、さらに、岡山県保育士・保育所支援

センター及び岡山市保育士・保育所支援センターからの案内等を申込者全員に送付した(申込をしていない研修会の資料も送付)。参加できなかつたり、参加申込をしなかつたりした講義については、紙面研修を勧めた。

- ④ メール及び③に同封してアンケート調査の配布と実施、及び、研修会に関する質問を受け付けた。

### 3. 受講申込者の特性

受講申込者の総数は23名で、講義への申込件数は、直前で中止となった情報交換会と体験実習を含めて延べ57件であった。受講申込者の年代を図1、受講申込者の属性を図2に示す。なお、図2の「地域子育て支援」とは、地域の子育て支援施設で勤務されている方であり、今回保育士資格保有の有無を尋ねなかつた。「保育士試験」とは、保育士試験の受験により保育士資格の取得を目指している方である。

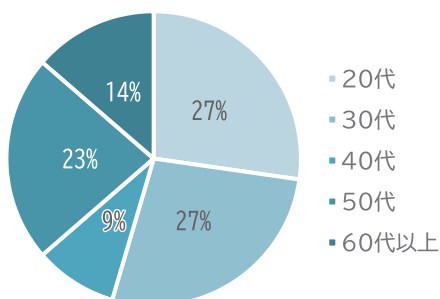


図1. 申込者の年齢構成

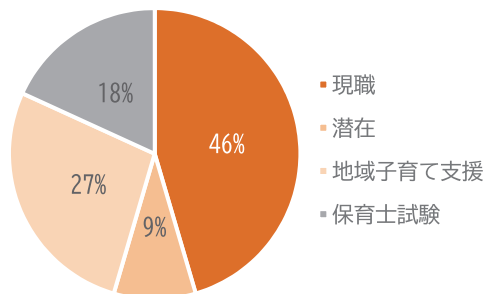


図2. 申込者の属性

## Ⅲ. 研修会の内容

### 1. 教育相談 (講師：荊木まき子)

「カウンセリングからみた親子対応」と題して、対面とオンラインどちらの立場でも学ぶことができるような内容とし、保育場面で使えるカウンセリングとして、カウンセリングの概要から実際の保育場面に使える実践編まで、子どもや保護者への対応の基礎として活かしてもらえよう配慮した。

実際の講義内容では、カウンセリングではどのように対人関係を構築するのかといったラポールの形成や、来談者中心療法でのセラピストの3条件、カウンセリング上で使用する聞き方として、感情の受容やくり返し、感情の反射、感情の明確化、自己開示といった応答技法の説明をした。また、これらの技法を保育場面で具体的に実践するために、カウンセリングマインド(カウンセリングの心)を持つ保育者がどのような態度を持つのが望ましいのかについても説明した。そこでは、カウンセリングマインドとは、子どもや保護者に対してだけでなく、保育者も一緒に変容していくことの大切さを伝えた。

実践編では、普段の自分自身の態度がカウンセリングマインドとなっているかといった普段の子育てや対人関係を振り返るチェックリストにより、自分自身の普段の行動や言葉を見つめなおしてもらった。さらに、カウンセリングマインドをより実践的に理解してもらうために、いくつかの保育場面を取り上げて、カウンセリングマインドを実践するには、どのような態度が望ましかったのかを考えてもらい、最後にこれらの保育場面から、カウンセリングマインドとして考えるポイントを伝えた。

今回は対面とオンラインというハイブリッド構成であったため、応答技法の実習は出来なかったが、実践編でカウンセリングマインドを活かした保育場面については、対面・ハイブリッドごとにグループでの話し合いを行い、それぞれの意見を交換し合う機会となった。

## 2. 器楽（講師：山下世史佳）

前半に伴奏楽器、主要コード、後半に指揮法の基礎、ハンドベルの基礎、手作り楽器について解説を行った。

伴奏楽器では、おすすめの伴奏楽器として主に鍵盤楽器のピアノ、電子ピアノ、キーボード、アコーディオン、弦楽器のギター、ギターレ、ウクレレ、マンドリンを挙げ、鍵盤数や重さ、音色等の楽器の特徴を提示した。主要コードでは、メジャーコード、マイナーコード、セブンスコードや、ギターの主要コードダイアグラムを紹介し、クラシックギターを用いて全員で調弦を行い、主要コードで演奏できる『かえるの合唱』や『ふしぎなポケット』の弾き歌いを実施した。

指揮法の基礎では、演奏者から見てわかりやすい動作になっていること、正確な速さを示すこと等の指揮のポイントを説明し、実際に指揮棒をもち、加速、減速の上下運動、プレス、打点を意識して2拍子、3拍子、4拍子、6拍子を振った。ハンドベルについては、楽器の特徴、音域、仕組み、奏法を説明し、いくつかの奏法を用いて『ハッピーバースデートゥーユー』を演奏した。手作り楽器では、手作り楽器の種類と特徴、幼児教育で手作り楽器を制作することの意義等を説明し、発泡スチロールのトレー等でギター（ウクレレ）を作った。

## 3. 乳児保育（講師：三好年江）

「乳児保育－根っこが育つとき－」をテーマに講義を行った。本講義のねらいは、「3歳未満児の発達を理解し、一人ひとりの健全な育ちや学びを支える保育の内容や方法等について学ぶこと」であり、主な内容は、①乳児保育の対象について②乳児保育実施にあたっての「保育所保育指針」の役割 ③人間発達における乳児保育の位置づけなどについての概説であった。講義の前半部分は、保育施設における乳児保育の対象は3歳未満児であることや、乳児保育実施にあたっての基本原則は「保育所保育指針」（以下、「指針」）に示されていることを紹介し、その内容を理解する大切さについて説明を行った。次に「指針」の「保育の内容」（ねらい・内容・内容の取扱い）部分を紹介し、3歳未満児を保育するにあたって常に意識

したり留意したりすることができるよう「指針」の読み取り方について解説を行った。後半は、3歳未満児の発達と保育の方法について、具体的に実践につなげて考えられるよう写真を用いて解説をした。また、保育の方法の一つとして、赤ちゃんとの触れ合い遊びがあることを紹介し（参加学生による実演）、受講者も一緒に触れ合い遊びを行った。最後に、3歳未満児の育ちを樹木などの「根っこの育ち」に例え、目に見えにくくわかりにくい部分であるが、その後の育ちに大きな影響を与える重要な時期であることを伝え、一人ひとりの子どもの姿を丁寧に読み取ることや受容的で応答的な関わりが求められることを説明した。

#### 4. 保育内容総論（講師：六車美加）

本研修会では、「子ども理解」を中心にしながら、保育者としての役割や保育の展開について学ぶことをねらいとした。

まず、現行の指針・要領について、改訂（改定）の方針を確認した。2017年の改訂から5年以上経過しているが、現在の状況を踏まえた保育・幼児教育の重要性を知る手掛かりとして研修内容に加えた。中でも、幼児期から高等学校教育にかけて育む「3つの資質・能力」や、小学校教育との円滑な接続のための「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の内容、さらに「幼保小の架け橋プログラム」の経過について紹介した。

次に、保育・幼児教育で重視すべき「幼児の主体性を育む」「遊びを通しての指導」「一人一人に応じた指導」の3点について確認したうえで、その出発点でもある「子ども理解」について解説した。①観察、②関わり、③記録、④連携などの「子ども理解」のための方法や、①肯定的に幼児を見る、②プロセスを捉える、③個と集団の関係を捉えるという、保育者の姿勢についてそれぞれエピソードを紹介するとともに、グループ協議を通して今回参加の方々が保育者の関わりについて意見交換をする機会も設けた。

#### 5. 図画工作（講師：柴川敏之）

今回の講座では、就実短期大学オリジナル教材である「首掛け式パネルシアター」を取り上げ、パネルの制作を行った。

前半部分では、主に「首掛け式パネルシアター」の仕組みや実践例を、パワーポイントや動画を使って参考作品と共に紹介した。要素をパーツとパネルに分けて紹介し、それぞれの特徴や制作にあたっての裏技を紹介した。「首掛け式パネルシアター」の可能性として、様々な展開例や応用例を紹介し、保育現場で使用する際のイメージを広げてもらった。

後半部分では、パネルの作り方を紹介し、実際に制作した。今回は、小サイズの450×300×5mmの貼りパネを用意して、簡単にできるパネルの作り方で制作した。いろんな色のフェルトやヒモ、クリップを用意して、自由にカスタマイズできるようにし、自分オリジナルのパネルを制作してもらった。保育現場で実践できるよう、制作したパネルは持ち帰っていただいた。また、この講座用のサイトに関連情報をアップし、自宅でもパーツなどの作品作り

ができるようにした。

## 6. 研修会の様子



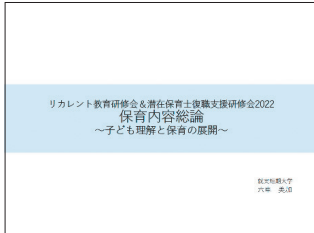
1. 教育相談



2. 器楽



3. 乳児保育



4. 保育内容総論



5. 図画工作



6. 送付資料

図4. 研修会の様子・資料等

## Ⅳ. 受講後アンケート

受講申込者を対象に、研修会内容に関するアンケート調査を行った。アンケートは、メールと郵送にて送り、どちらか一方で回答するよう依頼した。23名の受講申込者のうち、18名から回答があった（回収率78.2%）。

### 1. 受講者数

表2に、研修会中に主催者側が受付やオンライン上で確認した研修会受講者数とアンケート調査により、紙面研修を受講したと回答した者の数を示す。

表2. 研修会参加者の参加方法の内訳

日程	講義内容	対面	OL	紙面
8/23 (火) 午前	*教育相談 (荊木)	2	6	4
8/23 (火) 午後	器楽 (山下)	1	/	6
8/24 (水) 午前	*乳児保育 (三好)	3		13
8/29 (月) 午前	*保育内容総論 (六車)	2	7	3
8/29 (月) 午後	図画工作 (柴川)	2	/	4

(人)



表1と表2を比較すると、対面での研修会参加を取りやめた人が多いことがわかる。これは、研修会開催時期が新型コロナウイルス感染症の第7波の最中であり、感染者も高止まりしていた時期のためであると考えられる。保育施設でのクラスター発生の報告も多い時期であり、対面での研修会参加を控えたことが予測される。

全ての受講申込者には、研修会終了後に各講師が作成した講義の紙面研修用の資料を送付している。表2に示す通り、紙面研修用資料の送付により、自宅で研修に取り組んでいる者がいることがわかる。資料の配布は学び直しを希望する人には有益な方法の一つであると考えられる。

## 2. 受講者の満足度

受講した研修会の内容を「満足・やや満足・普通・やや不満・不満」の5段階で評価をお願いした。図3に受講者の満足度を示す。満足=1・やや満足=2・普通=3・やや不満=4・不満=5と数値化し、平均値を求めたところ $2.0 \pm 1.0$ （平均値±標準偏差）点であった。「満足・やや満足・普通」のいずれかで回答している者が多いことがわかる。全て対面で開催していた2019年以前の受講満足度と比較すると受講者の満足度は劣るが、2020年度の紙面研修のみの開催時より受講満足度は向上しており、昨年度のオンラインと紙面研修の併用開催とはほぼ同等の受講満足度である<sup>10)</sup>。

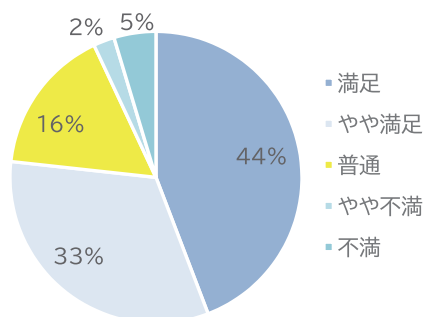


図3 受講者の満足度

昨年度も課題として挙げたが、対面開催と紙面研修のみでオンライン対応講義にしなかった実技科目（器楽・図画工作）に「不満」の回答があった。実技科目についての講義方法や内容の精査については、引き続き検討課題としたい。

オンライン対応をした座学系の講義では、全ての講師がオンライン上で小グループを作成して、少人数でディスカッションをする内容を設けていた。活発に議論をするグループもある一方で、ファシリテーター役をする人が見つからずに困っている姿も見かけられた。また、小グループから全体に戻って発表する際の音声聞きにくかったとの意見もいくつかあり、対面とオンラインの両方を併用して研修会を実施する場合の配慮事項を主催者側は把握する必要があった。

## 3. 受講者の感想（抜粋）

・難しいと思った内容もあったけど、改めて考え、気づいたこともあったので、参加して良かった。

- ・ 学生さんや他園の先生との話し合いがあり、刺激と再認識ができた。乳児保育では3歳未満児のクラスが担当のためとても勉強になった。保育所保育指針を読み返すいい機会になった。
- ・ 子育て・妊娠中なのでオンラインで参加できるのはありがたかった。グループトークはスムーズに進まず、時間ももったいないと感じることもあったが、様々な立場の人がいて、励みになる部分もあった。
- ・ 参加をキャンセルしたのに、資料をありがとうございました。
- ・ 年齢的にも子育て支援をしながら研修会で勉強する事があまりないので、参加できてよかった。
- ・ 小規模園に勤務しているため乳児保育を学び直すことが出来て有難かった。学生さんによるふれあい遊びの披露や、実例に基づく対応方法のディスカッションは大変参考になった。オンライン上の不具合（マイクが遠く聞きづらい等）にもすぐに対応して下さり、オンライン参加のストレスは感じなかった。

## V. 潜在保育士復職支援研修会の実施状況

潜在保育士復職支援プロジェクトは2014年度より取り組んでいる。研修会受講者数及び再就職者数については、表3の通りである。なお、実受講者数について、2021年まで（ ）内は現職の保育者を指す。2022年度から（ ）内は潜在保育士を表記する。

表3. 研修会の実施状況

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
研修申込者数	52	24	28	23	29	19	9	22	23
実受講者数	31	22	24 (12)	22 (9)	25 (13)	16 (6)	9 (1)	22 (12)	17 (2)
就職者数	5	5	7	8	3	1	1	4	調査中

2023年1月19日現在

今年度も昨年度に引き続き、岡山県の「保育士養成施設連携強化事業」の「保育士の再教育事業」の受託を受け実施したため、県内の広域に研修会の告知をすることができ、さらにリカレント教育研修会や「学び直し」を強調したため、潜在保育士以外の参加者が多かったものと予測する。過去に潜在保育士として研修会に参加された後に保育士として就職をし、「学び直し」のために研修会への参加を継続している方々もいる。特に研修会参加機会の少ないパート勤務等の短時間勤務の方には、現在の保育に係る動向を学ぶために有効な研修会になっていると感じる。子どもに関わる全ての方々のニーズを探りながら、今後の研修内容や運営方法を検討する必要がある。

今年度、初めて対面とオンラインでの同時開催としたが、オンラインでの参加申込者が多かったことに加えて、これまでの研修会の特徴と異なった点は、会場のある大学所在地の岡

山市以外の自治体からの申込が例年に比べて多かったことである。半数は岡山市以外からの申込者であった。

## Ⅵ. おわりに一残された課題とその解決への展望

2014年の潜在保育士復職支援プロジェクト立ち上げから9年が経過した。過去2年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、研修会の開催方法について苦慮した。2021年度の活動報告<sup>9)</sup>において、対面・オンライン・紙面研修を併用した開催について検討の余地があることが示唆され、今年度はそれを実行した。オンライン研修の対応については、これまでに本学科がコロナ禍で行ってきた授業等の経験や技術の集積により、昨年度と比較して受講者に過度なストレスを与えることなく、オンライン研修を遂行することができたと考える。同時に、初めてオンライン研修会に参加する受講者もいたが、多くの受講者は長引くコロナ禍のためか、オンラインでの研修会に参加するための機器の操作に慣れているようであった。このような背景もあり、大学所在地以外の自治体からのオンラインを活用しての参加者が増えたと考える。広域からの受講希望者に研修会参加機会を提供できることや、会場までの移動時間を削減できることは受講者にとって有益であると考えられる。一方で、昨年度に引き続き、実技科目の開催方法が課題として挙げられ、今後も検討の必要がある。受講者のアンケートには、リズム遊びや手遊びなど実践に直結する研修を希望する声も多い。対面及びオンラインで実施できる方法を模索していきたい。

近年、待機児童が解消されつつあり、「新子育て安心プラン」<sup>11)</sup>の計画に基づき、保育の受け皿の整備が進められている。このプランの出発点であった「待機児童解消加速化プラン」では、潜在保育士の就職支援や保育士資格の取得支援等があった。本研修会の参加者の中にも、保育士試験の合格により保育施設に就職をした人や就職を検討している人は多い。また、就職した人の中には、パートなどの短時間勤務を選択している場合が多く、そのような勤務形態の場合には、保育に関する研修会参加機会が少ないようである。また、若手保育士においては、経験や知識が十分に伴っていない中で本人にとって責任が重いと感じる仕事内容や量であったり、就職するまでに自分が思い描いていた保育士の業務の様子とかけ離れていたりする「リアリティショック」の問題がある<sup>12)</sup>。このような問題は、若手保育士に限らず、潜在保育士からの就職や保育士試験合格からの就職に至った保育士も同様にあると考える。研修会を主催する側として、保育士として自信を持つことができるよう、保育に関わる今日的課題や最新の知見を踏まえた専門的知識の向上を提供することが求められていると考える。また現在、新型コロナウイルス感染症の流行により未開催となっている保育施設での体験実習や情報交換会の開催は、経験値を向上させ、実際に働く保育士との横のつながりができ、リアリティショックを回避する重要な研修項目となるため、実現に向けてさらなる工夫が必要であると考えられる。

現在の国の予測では、保育所の利用児童数のピークは令和7年(2025年)と見込まれてい

る<sup>13)</sup>。今までは待機児童解消の対応が最重要事項として推し進められてきたが、今後は保育の質を向上させることに重点がシフトしていき、多様な保育・子育て支援ニーズへの環境整備が必要となってくる。そのような中で、本学は養成校としてリカレント（学び直し）研修会を開催し、受講者は参加することによって、知識や技術が向上し、どのような環境下であっても自信を持って職務を遂行し、就業継続に寄与できるよう支援を検討していきたい。

## Ⅶ. 謝辞

今年度の潜在保育士復職支援プロジェクトは、岡山県（保健福祉部子ども未来課）の「令和4年度保育士養成施設連携強化事業」の委託を受け、実施した。運営に際してもご協力をいただきましたことに感謝の意を表します。

## Ⅶ. 参考文献

- 1) 岡山市（2022）「入園申込児童数（待機児童数）の推移（平成24年度～令和4年度）」  
<https://www.city.okayama.jp/kurashi/cmsfiles/contents/0000012/12547/zidousuusuiH24-R4.pdf>（最終検索日：2022年10月22日）
- 2) 総務省統計局（2022）「労働力調査（基本集計）2021年（令和3年）平均」  
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index1.pdf>  
 （最終検索日：2022年10月22日）
- 3) 厚生労働省子ども家庭局保育課（2022）「保育所等関連状況取りまとめ（令和4年度4月1日）及び「新子育て安心プラン集計結果 概要資料」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000979629.pdf>  
 （最終検索日：2022年10月22日）
- 4) 澤津まり子・鎌田雅史・山根薫子（2015）「潜在保育士の実態に関する調査研究－離職の要因を探る－」就実論叢、第45号 pp.191-200
- 5) 澤津まり子・田中誠・秋山真理子・松本希・鎌田雅史・笹倉千佳弘・柴川敏之・Z.山田章子・荊木まき子・伊藤優（2016）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育の活動報告」就実論叢、第46号 pp.199-205
- 6) 柴川敏之・笹倉千佳弘・Z.山田章子・荊木まき子・伊藤優・田中誠・鎌田雅史・秋山真理子・松本希・澤津まり子（2017）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育－2017年度活動報告」就実論叢、第47号 pp.221-228
- 7) 松本希・鎌田雅史・秋山真理子・荊木まき子・伊藤優・小谷彰吾・土田耕司・柴川敏之・ズビャーギナ章子・土倉由妃・澤津まり子（2018）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育－2018年度活動報告」就実論叢、第48号 pp.163-172
- 8) 小谷彰吾・柴川敏之・鎌田雅史・ズビャーギナ章子・土田耕司・松本希・秋山真理子・荊木まき子・土倉由妃・澤津まり子（2019）「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレ

ント教育－2019年度活動報告－」就実論叢、第49号 pp.151-160

- 9) 小谷彰吾・澤津まり子・池田明子・松本希・荊木まき子・山下世史佳・土田耕司・柴川敏之・ズビャーギナ章子・鎌田雅史・上山智子 (2020) 「潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育－2020年度活動報告－」就実論叢、第50号 pp.91-99
- 10) 松本希・荊木まき子・鎌田雅史・小谷彰吾・土田耕司・ズビャーギナ章子・三好年江・山下世史佳・柴川敏之・池田明子 (2021) 潜在保育士復職支援研修及び卒後リカレント教育－2021年度活動報告－」就実論叢、第51号 pp.205-215
- 11) 厚生労働省 (2020) 「新子育て安心プラン」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000717624.pdf>  
(最終検索日：2022年10月22日)
- 12) 澤津まり子・秋山真理子・柴川敏之・鎌田雅史・伊藤優・佐藤宏子・土倉由妃 (2019) 「若手保育士の就業継続支援及び離職防止への取り組み－就業状況の実態調査より－」就実教育実践研究、第12巻 pp.1-17
- 13) 厚生労働省 (2021) 「保育を取り巻く状況について (資料)」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000784219.pdf>  
(最終検索日：2022年10月22日)